

第14回白山火山防災協議会（議事要旨）

1 日時

令和7年2月28日（金）14時00分～15時00分

2 場所

石川県地場産業振興センター本館 大ホール ※web 併用

3 報告事項

- (1) 令和6年度白山火山防災協議会活動報告について
- (2) 白山におけるリアルタイムハザードマップの提供について
- (3) 火山噴火予知連絡会の役割の見直しとそれに伴う変更について

4 協議事項

- (1) 白山火山防災計画、白山の火山活動が活発化した場合の避難計画の修正について
- (2) 令和7年度白山火山防災協議会事業計画（案）について

5 その他

- (1) 白山の火山活動の状況について

6 議事要旨

(1) 議事概要

会長（田村白山市長）の挨拶に続き、会長の議事進行で議事に入った。

報告事項(1)を事務局より、報告事項(2)を北陸地方整備局金沢河川国道事務所より、報告事項(3)を金沢地方気象台より説明。その後、協議事項(1)(2)を事務局からそれぞれ説明し、承認された。

続いて、「白山の火山活動の状況について」を金沢地方気象台から説明を行い、最後に、副会長（成原白川村長）の挨拶で閉会となった。

(2) 質疑応答の要旨

①質疑等（石川県危機管理監）

リアルタイムハザードマップに関して、平時や噴火前、噴火時のシミュレーションについては、国交省が実施し、関係市町に提供されるという認識でよいか。また白山におけるリアルタイムハザードマップの運用開始はいつからか。

①回答（金沢河川国道事務所副所長）

シミュレーションについては国交省で実施し、各防災関係機関に提供される。

白山におけるリアルタイムハザードマップの運用開始については、すでにほとんどのデータの整理ができていることから、今後さらに内容を精査し、近いうちに運用開始する予定。

①質疑等（石川県危機管理監）

リアルタイムハザードマップが運用された際には、平時からシミュレーションを実施し、万一の際に白山市や白川村のような防災対応を行う機関に対して、しっかりと提供できる準備を整えていただきたい。

また平時からの準備として、来年度は、リアルタイムハザードマップを使った訓練の実施も視野に入れていきたい。

②質疑等（石川県危機管理監）

2月25日に白峰で実施された住民等避難訓練について、融雪型火山泥流の影響範囲にいる避難行動要支援者が4, 5名程度いると聞いている。その方たちの個別避難計画の策定状況はどうなっているか。

② 回答（事務局(白山市危機管理課長))

白峰地区における避難行動要支援者の個別避難計画策定状況については、白山市の健康福祉部が担当しているが、いまだ策定には至っていない。

ただ、白峰においては、昨年9月に地区自主防災組織が設立されているので、今後地元の防災組織と協力して、個別避難計画の策定が進められるものと承知している。

②質疑等（石川県危機管理監）

個別避難計画の作成については、石川県内ではあまり進んでいない状況にある。また発生時の季節や平日、休日などによっても対応できる方が変わってくるなど様々な状況が想定されるため、白山市においては、県の協力も得ながら、可能な限り早めの作成に努めていただくとともに、平時の訓練においても体制の確認をお願いしたい。